1 赤門東通り（あかもんひがしどおり）

臨済宗方広寺派禅定山光勝院の東側の道で、北には西南部排水路（高塚川）に架かる二建橋（にけんばし）があり、南は掛舞線（県道竜洋舞阪線）に通じる。このお寺の門は、昔から、西の大通院の黒門に対して赤門と呼ばれてきたので、この愛称を付けた。初めて門が造られたのは、かなり古く、文正元年（1466年）といわれる。

2 宮東通り（みやひがしどおり）

親合神社（むつあいじんじゃ）の東側の道で、北には西南部排水路（高塚川）に架かる東新橋があり、南は掛舞線に通じる。昔、近くに大工場があり、朝夕の通勤の車がかなり多い道であった。新合神社は、昔は八柱神社といわれてきたが、明治の終わり頃、今の神明組の青年会館の辺りにあった神明宮を合祀してからこの名前に改められたという。また、近くの虚空蔵さまは、智恵福徳を授ける仏さまとして有名であり、例年2月13日のお祭りの日は、特別なにぎわいを見せている。

3 妙典山（みょうでんやま）

地家七軒島（じげしちけんじま）の地に、内山治郎大夫の元屋敷があり、そのなかに築山があって、妙典様をまつるの法要塔が建っている。地元では妙典山と親しみ呼ばれている。昔、この山に入って木を切った人があり、妙典様のたたりにあったとの言い伝えがあるほど、神聖でけがれを嫌う場所として、代々守り伝えられてきた由緒ある土地である。

4 学校通り（がっこうどおり）

この道路は、別名請願道路ともいって、地域住民の願いが実を結んだ新しい道路である。新津連絡所跡地南から西へ小沢渡住宅に通じる延長3000mの間を貫通した立派な道路にしてほしいと、昭和32年8月に市に陳情し、30年代後半に完成したもので、以後、当地区内の主要幹線道路となった。通称、新津校前通り線といわれてきたので、学校通りと名付けた。

5 御台場通り（おだいばどおり）

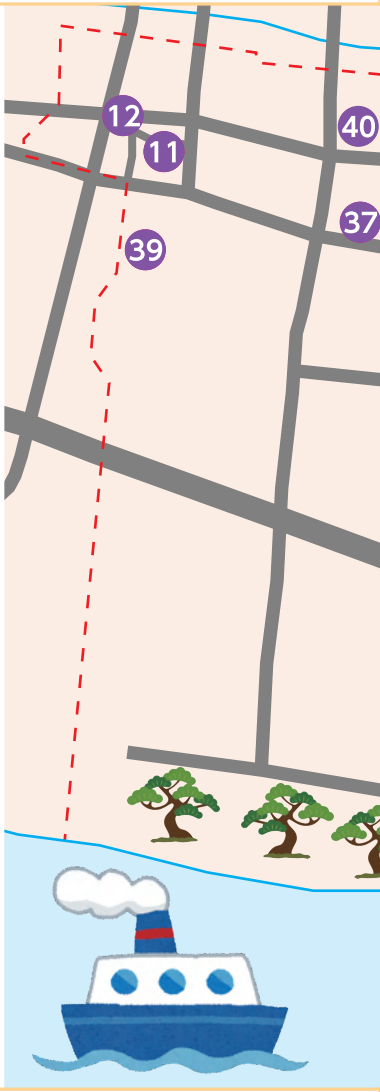
旧浜松西農協新津支店西側の道で、海岸へ通じるメイン道路であった。幕末に日本の海岸に出没しはじめた黒船に備えて、砲台を設置した台場跡がある。また、昭和12年ごろ、この道は15m位に広げられた。軍隊が米津に高射砲の訓練場を造ったためである。この高射砲の訓練場へ行くために広げられたので、一時高射砲通りともいわれた。このとき、東若林から新橋入口までは新道（しんみち）とも呼ばれた。

6 大通院通り（だいつういんどおり）

大通院は、応永8年（1401年）、奥山方広寺無文和尚の三世の法孫、的伝一著（てきでんいっちゃく）大和尚によって開創された臨済宗方広寺派の中本山である。かつては末寺を48寺も抱えた大きなお寺であったが、大正15年、不慮の火災により焼失した。現在は、黒門が傍の「禁葷酒」の碑とともに往時をしのばせている。大通院の本殿は、現在の清明寮の敷地内にあったといわれる。ここから掛舞線までの通りを大通院通りと名付けた。

7 学校通り（がっこうどおり）

この通り沿いには新津小学校、中学校があり、朝夕には児童生徒たちでにぎわっているので、学校通りと名付けた。



8 おきゃあら（水遊びの跡）（おきゃあらみずあそびのあと）

可美地区との境界をなす高塚川の辺りは、昔、一面の湿地帯で、行き交う人が腰までつかったり、ぶくぶくと沈んだりという所だったらしい。可美方面へ出かけていく時は、わらを置いてその上を渡っていったという。その「置きわら」という言葉がなまって、いつのまにか「おきゃあら」となったようである。現在は改修されて昔の面影はない。

9 西瓜山（すいかやま）

昭和の初めころまでであろうか、ここは松林で、夏でもさわやかな涼風が吹き抜けていた。特産の西瓜をここで検査して出荷していた。西瓜を出し終わると、大勢のお百姓が車座になって談笑している風景がいつも見られたものである。特産の西瓜をここで検査して出荷していた。西瓜を出し終わると、大勢のお百姓が車座になって談笑している風景がいつも見られたものである。それも農協活動が盛んになるにつれて、いつの間にかなくなってしまった。

10 大通院（だいつういん）

現在の大通院は黒門の北にある。近隣の善男善女が日曜日の早朝に集まり、お経をあげたり、茶飲み話をしていた。

11 旧児童遊園地跡（きゅうじどうゆうえんちあと）

昭和27年、小沢渡町に市営団地が造成されたが、その当時この遊園地は雑草の生い茂る空き地であった。その後、住民の奉仕により雑草を取り除き、植樹を行い、浜松市の助成を受けて遊具を設置するなどして、子供達の遊び場、自治会の野外行事や文化活動の場として利用された。この遊園地は、昭和63年度から始まった「市営住宅小沢渡団地」の建て替えにより駐車場となり、当時の苦労や楽しい思い出をいつまでもとどめるために愛称標識をこの地に残すこととした。

12 市営住宅通り（しえいじゅうたくどおり）

昭和27年、小沢渡団地内に引揚げ者住宅が建設され、5月から6月にかけて24世帯が入居した。また、昭和28年には市営住宅20戸が建設され、5月中に20世帯が入居した。これが小沢渡住宅自治会の原点となった。そして、昭和28年10月には、念願の単位自治会（当時は小浜「こはま」住宅自治会と称した。）として発足し、今日に至っている。当自治会の発祥の地として後世に残したいので、市営住宅通りとした。

13 鯨川（くじらがわ）

堤町と倉松町の間を流れる境川で、昔、鯨が海からさかのぼって来たことがあったとの言い伝えにより、鯨川と呼ばれている。あるいは、半農半漁の生活を営んでいた遠い祖先の人達が、陸地近くに回遊してきた鯨を小舟とモリで捕獲し、その水場などに利用した川ではないかとも考えられる。今は土地改良事業の結果立派な排水路となり、排水機場が設置されている。

14 堤防跡地（ていぼうあとち）

堤町に西はずれに位置し、強風と飛砂によってつくられた自然堤である。北から南に細長く伸びた堤の上に狭い道がついていたが、雑草とかん木が生い茂り通行の妨げをなしていた。今は、土地改良事業よって宅地と農地に変わり、その面影を留めていない。